

シンポジウム「海の森の今」

1月25日(土)に日本科学未来館で、水産多面的機能発揮対策に係るシンポジウムが開催されました。全国で選ばれた「藻場」の保全活動組織から、これまでの活動内容や結果の発表がありました。シンポジウムでは水産多面的機能発揮対策事業を社会全体に広く認知させ未来へ藻場を引き継ぐ思いを共有しました。

また、10年以上藻場の活動を続けている「深江ブループロジェクト活動組織」が今回発表者として選ばれ、水産課日記でも度々紹介していた「アマモすくすくプロジェクト」の活動について発表されました。漁獲量が少なくなった深江の海を綺麗で魚が多くいる海にするためにアマモ場の造成に向けて継続的に取り組んでいます。活動する中で台風や大雨の影響もあり一時は減少したアマモ場が、現在は回復傾向にあり少しずつ成果が見られることなど深江町内の小学生と一緒に取り組んでいることを発表されました。

全国各地で深刻な磯焼け問題ですが、東北では震災後も海に流れ着いた瓦礫の撤去や海上清掃を行っているダイバーもいました。地元の漁師やダイバー仲間と協力し、水産資源の保全活動を行っていました。

今後の環境変化にも対応しながら、未来へ「藻場」を残せるように頑張っていきたいです。



発表者の深江ブループロジェクト活動組織
(ステージ中央左：吉田代表、右：松本副代表)

みんなで保全する

『アマモすくすくプロジェクト』



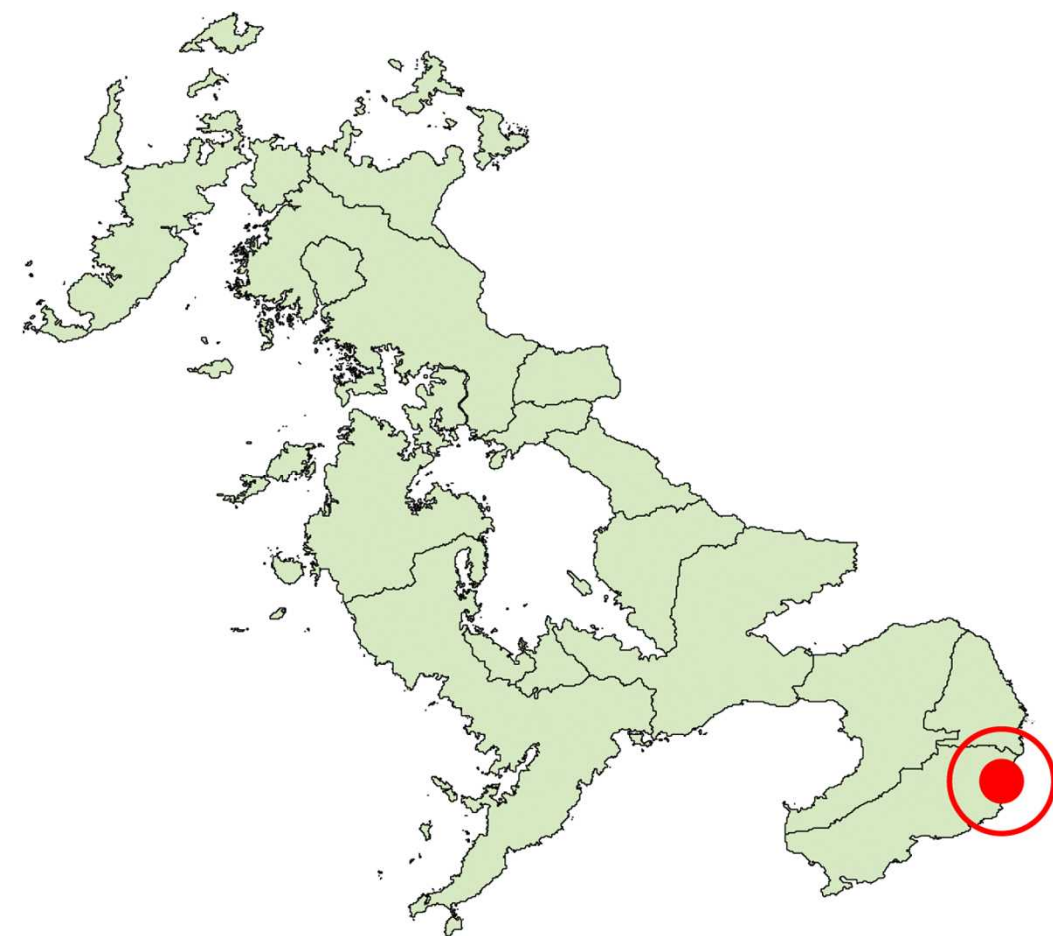
深江ブループロジェクト活動組織

- 深江地区について
- 深江地区の海の状況
- 活動組織について
- アマモ場の再生活動について
 - ① 活動体制
 - ② 活動方針
 - ③ 取組内容
 - ④ 成果と今後の方針



01 深江地区について

- 深江地区は、長崎県島原半島にある南島原市の北東に位置する。
- 平成2～7年にかけて島原半島を襲った雲仙普賢岳の噴火に伴う土石流等による被害が大きかった町として知られる。
- 町は農業と漁業が盛んで、漁業はイカ籠、刺網、タコ壺等を複合的に営む。
- クルマエビ養殖も盛んで、地域の特産品になっている。



- 地区の海岸線には干潟が広がっており、その前面にはアマモ場が形成されている。
- アマモ場は、昭和35～平成2年にかけての30年間で約7割減少し、平成初頭には10ha程が残るだけとなった。
- その後も噴火の影響による土砂の堆積やアオサの大量発生など、アマモ場に悪影響を及ぼす事態が生じており、その衰退が懸念される。
- また、アマモ場の衰退とともに、干潟の生産力も低下し、アサリをはじめとする二枚貝も大きく減少している。



03 活動組織について

【設 立】平成21年度

【組織名】深江ブループロジェクト活動組織

【目 的】沿岸域の多様な魚介類を育むアマモ場の再生
干潟生産力の向上を目的とするアサリ資源の回復

【体 制】漁業者34名、漁業者以外505名
(漁協職員・女性部・中学校PTA・小学校等)

【取 組】藻場保全：アマモの播種・移植、ヒジキ種苗の投入 等
干潟保全：稚貝等の沈着促進、保護区域の設定、漂着物の除去 等

ヒジキ種苗の投入画像

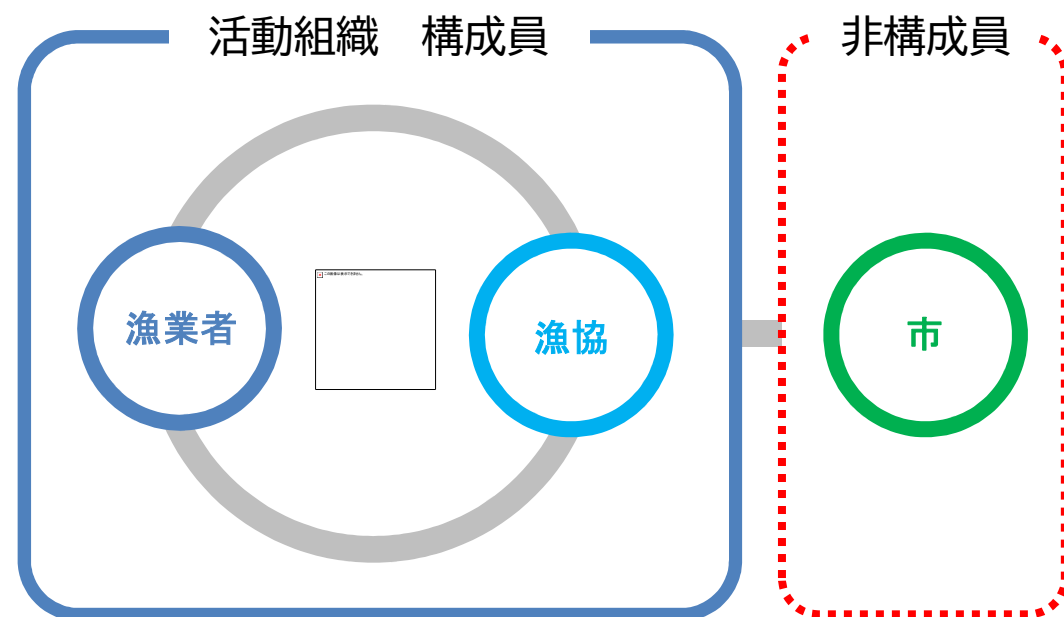
被覆網の設置画像



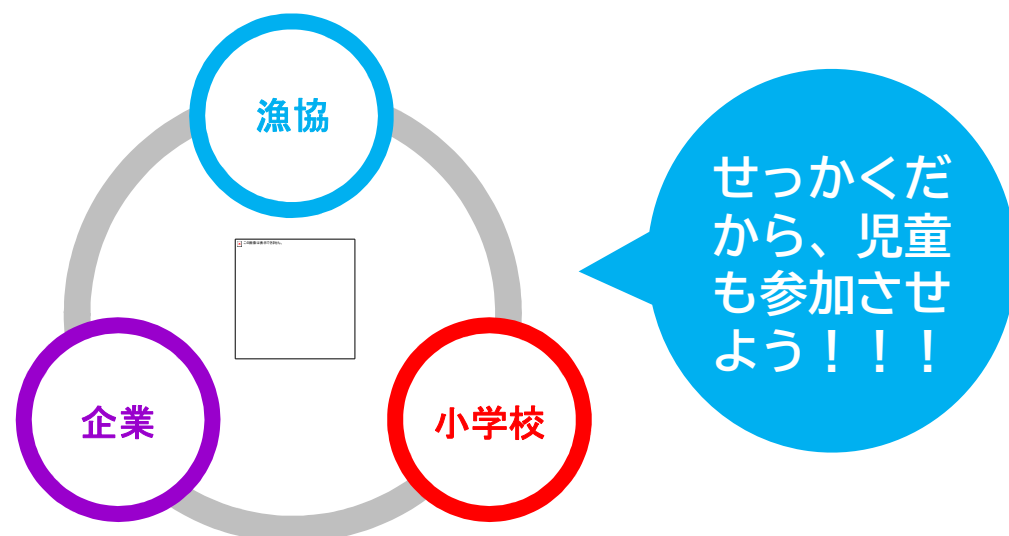
アマモ場の再生活動は、平成21年度からスタート

○ 活動当初（H21～24）

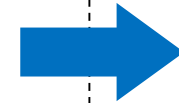
環境生態系保全対策事業



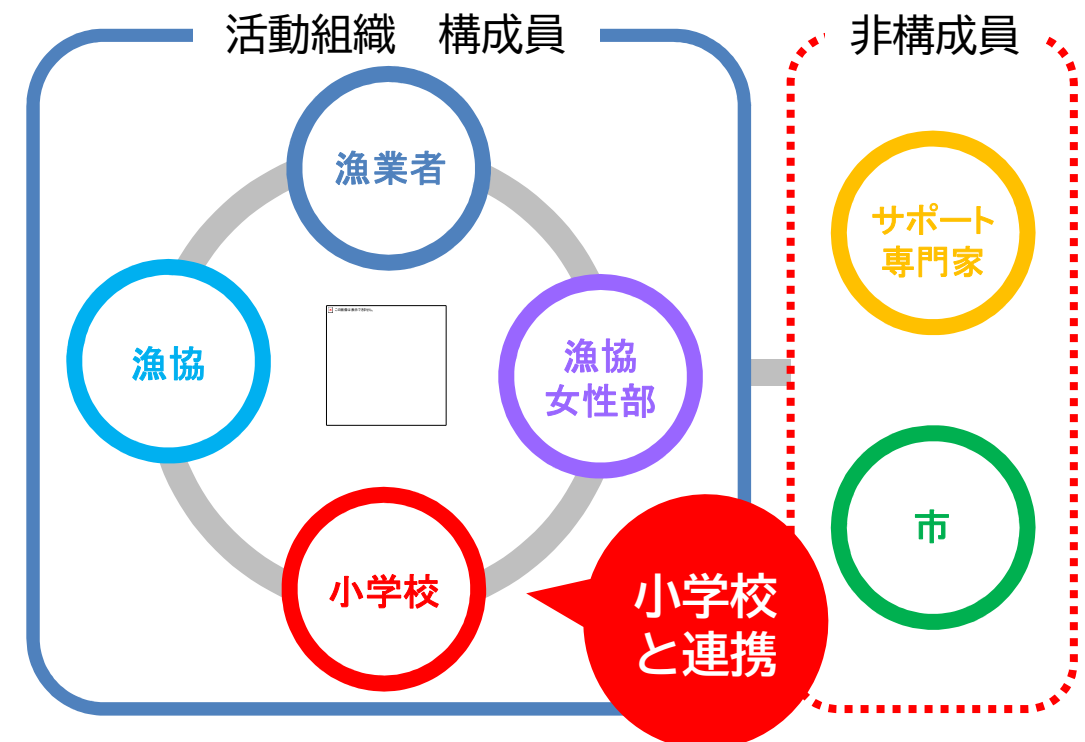
事業外：アマモ場再生試験（約2年で終了）



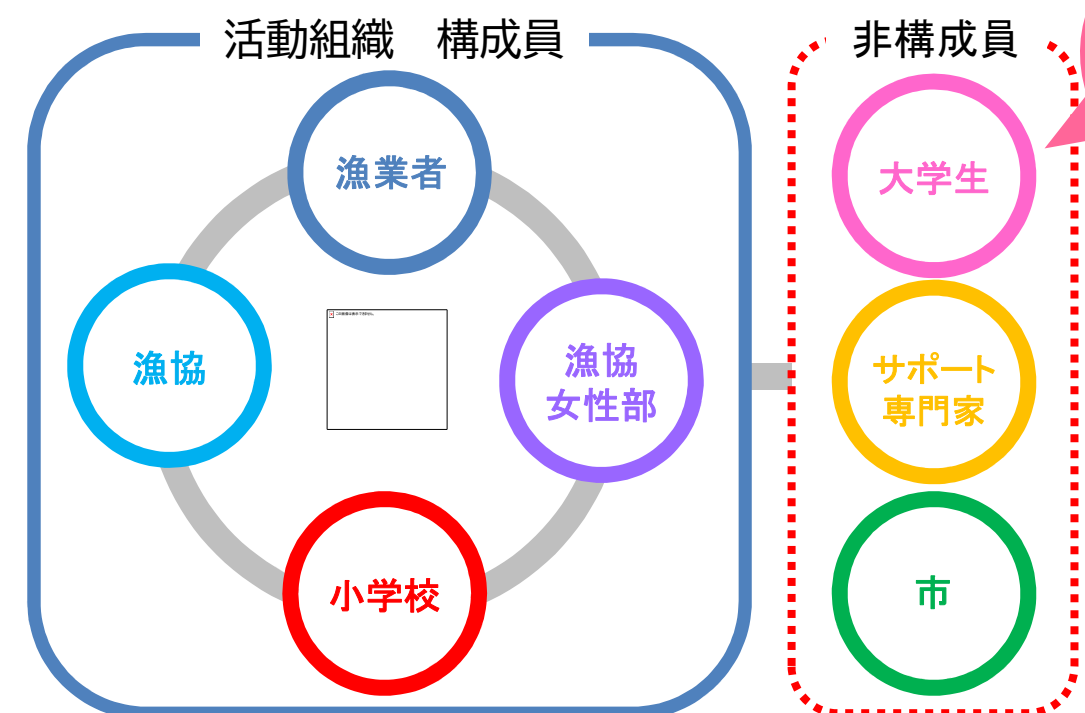
将来を担う子どもたちに知ってもらうことは大変重要！



○ H25～R03 水産多面的機能発揮対策事業



● R04～ 水産多面的機能発揮対策事業



新たな助っ人

このまま終了するのはもったいなあ！！！！

05 アマモ場の再生活動 活動方針について

○ 活動方針

- ・ 小学校と連携して活動を進め、地先の海の魅力や大切さ、また地元の漁業や水産物への関心を促す。
- ・ 子どもたちに親しみを持ってもらうために、活動名称を『アマモすくすくプロジェクト』とし、取組を進める。
- ・ 県内の藻場の再生のためにウニ除去活動のボランティアを行う大学生のダイビングサークル『I S A N A』と連携し、活動の充実を図る。
- ・ アマモ場再生の方法は、当初、マット法による播種を実施してきたが、安価で簡便な『かみ粘土法』による播種を中心に取組を進める。
- ・ 藻場再生の活動とともに、『食』を通じた学習も進め、藻場や海への興味、またそれを保全することの重要性をより深く感じてもらう。

○ 各主体の役割分担

主体	役割
漁業者	活動(全般)の主体。
漁 協	活動の運営。構成員や非構成員との調整。
漁協女性部	活動のうち食育に係る支援。

主体	役割
小学校(教員)	調整。児童の監視。振り返りに係る指導。
大学生	活動に係る座学や実習の支援。
サポート専門家	活動時の講師。
市	活動の補助。

○ 『アマモすくすくプロジェクト』の進め方

- ・ プロジェクトは、小学校5年生児童の総合学習の授業として実施する。
- ・ 授業は、年4回実施する。
- ・ 授業の流れは・・・

取組①

深江の海の授業

： 0 6 月

取組②

アマモの種まき授業

： 1 0 月

取組③

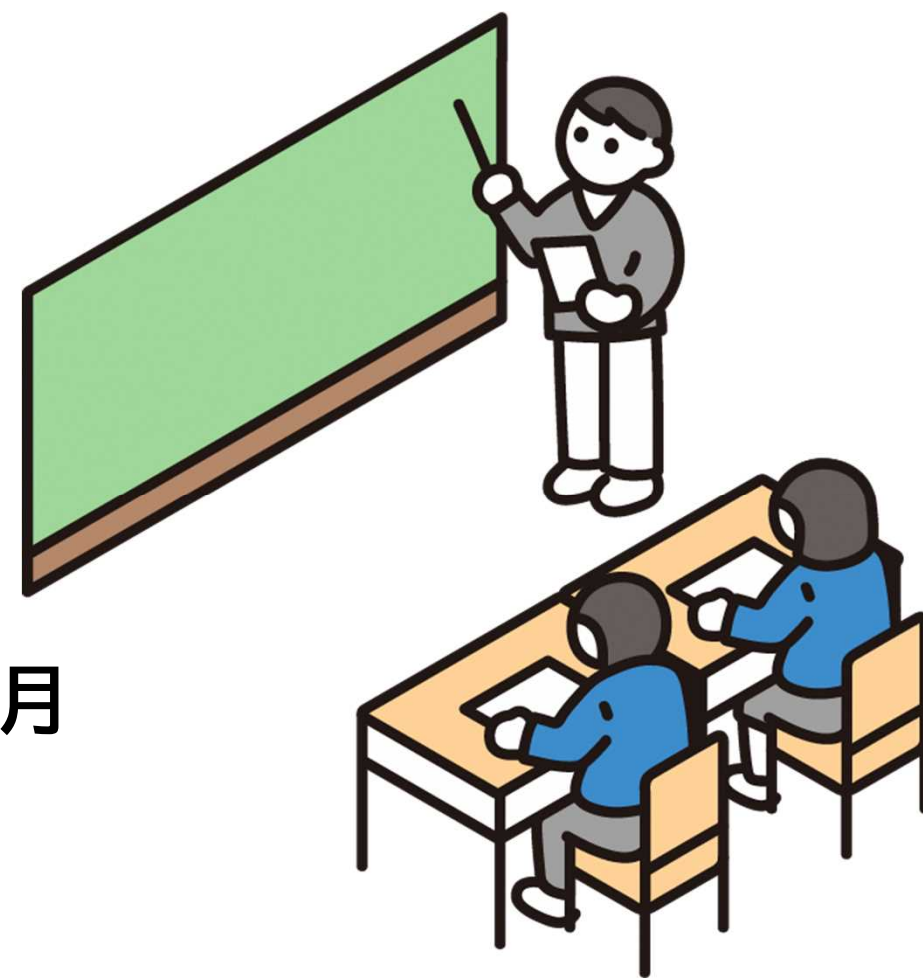
食の授業

： 1 1 ～ 0 2 月

取組④

修了式

： 0 3 月



取組内容①

深江の海の授業

深江の海やアマモに興味を持ってもらおう!!!

○ 座学（午前）

深江の魚、アマモ、プロジェクト内容、学生の話、海藻クイズ などなど



○ 実習（午後）

アマモの花枝採り、藻場の魚介類調べ、干潟のアサリの水質浄化試験 などなど



取組内容②

アマモの種まき授業

種まきを体験し、藻場
保全への関心の高まり
と記憶の定着を図る！

- アマモ粘土 と カップdeアマモ苗づくり（午前）
花枝採取後の種とりの話、アマモ粘土づくり、アマモカップづくり



- 実習（午後）
アマモ粘土による種まき



取組内容③ 食の授業

藻場周辺の魚介類や海藻を調理・実食し、保全への理解を深める！

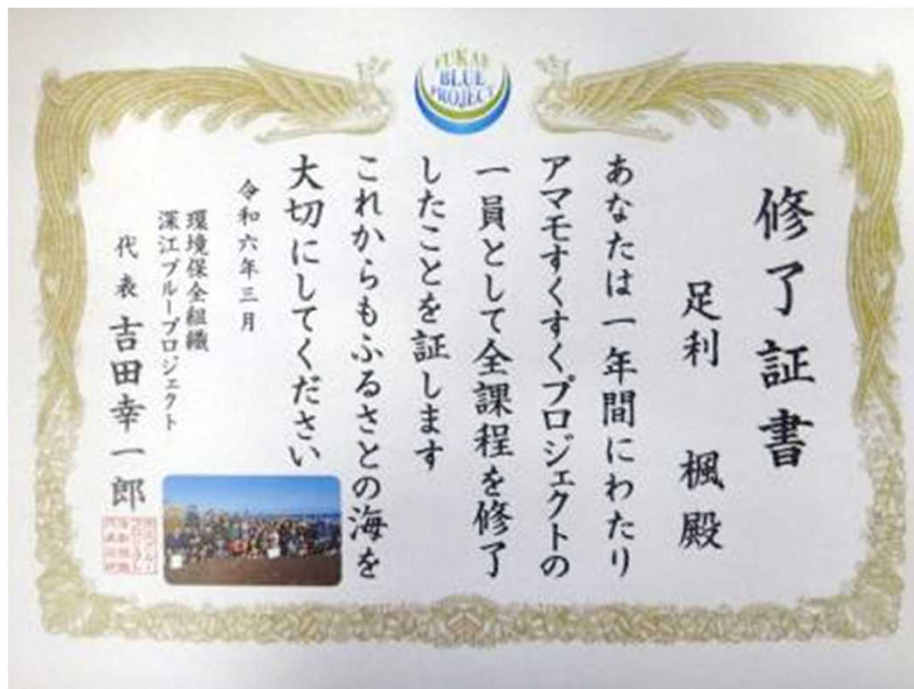
○ 藻場で育まれる魚介類の調理・実食（午前～給食）



取組内容④ 修了式

修了式にアマモカップを受け取り、後日移植！

○ 修了式およびカップdeアマモ苗の受け取り（午前）



○ アマモ場保全の成果

- ・ アマモ場の被度は、一部で60%を超える地点が認められるなど、一定の成果は得られている。
- ・ しかし、地区全体のアマモ場の平均被度は現在27%程度で、大きな成果は得られていない。
- ・ また、平均被度の推移をみると、台風や大雨の影響もあり、不安定な状況にあり、今後も継続的な取組が求められる。

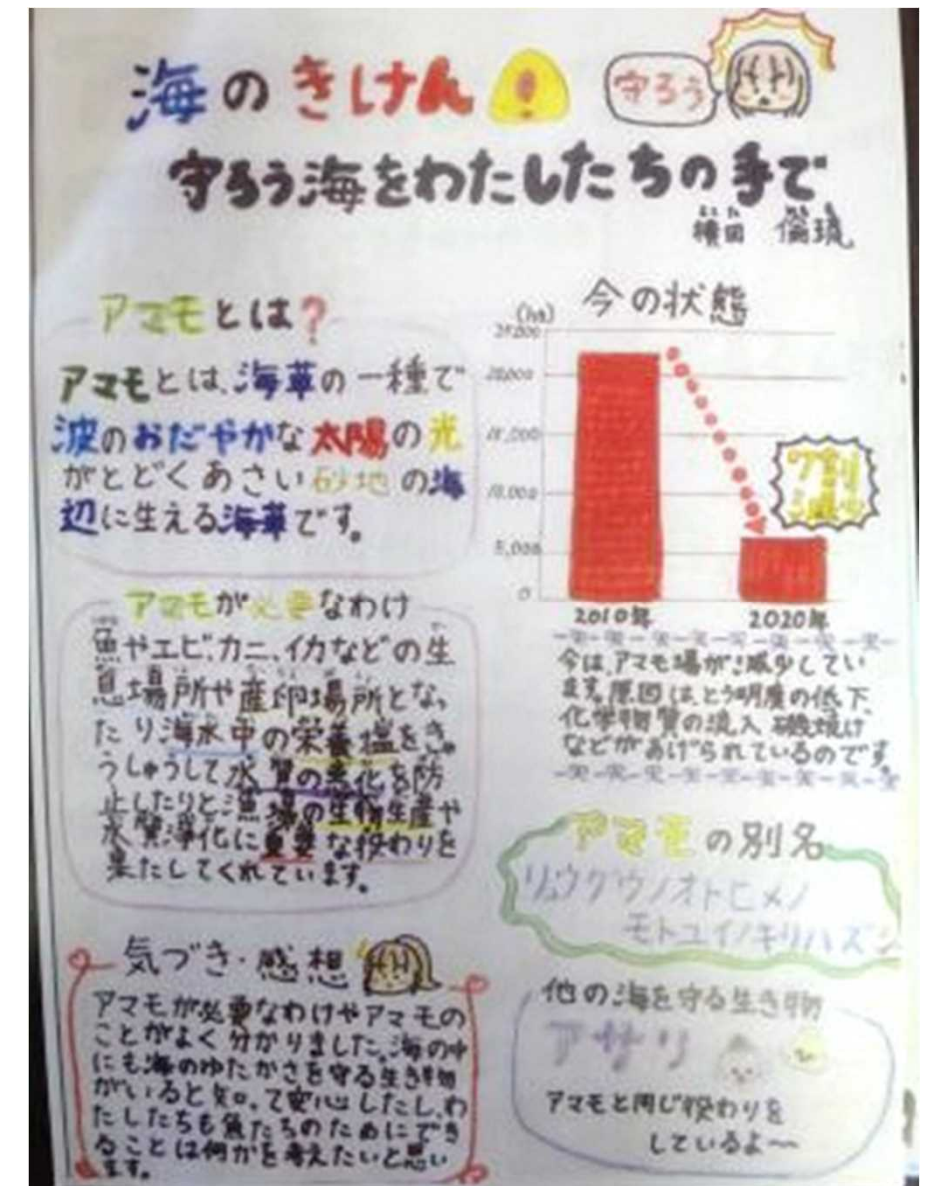
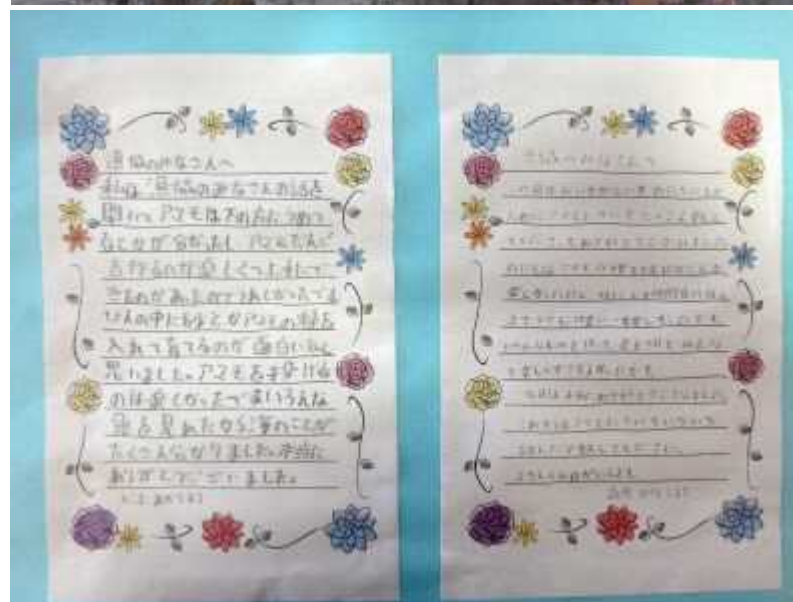
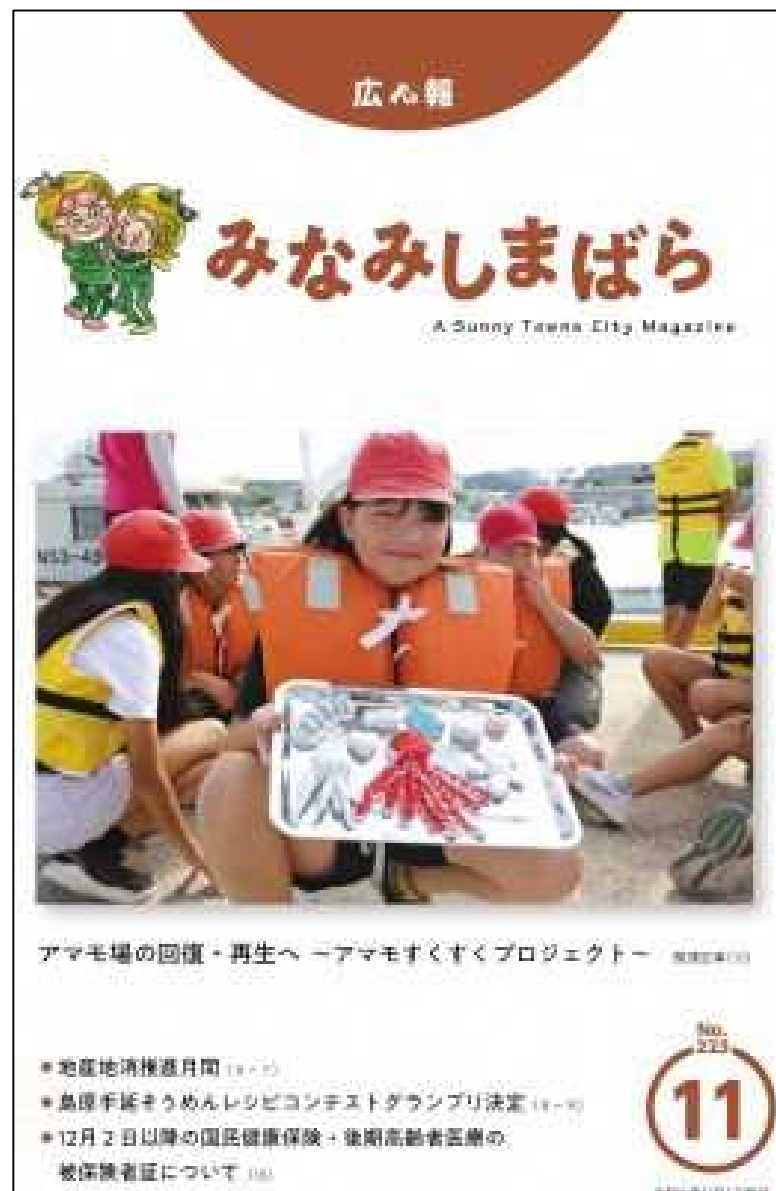
平均被度 (%)



コウイカの卵

○ 連携による効果

- ・ 長年の小学校との連携で、市の広報紙やケーブルTV等のメディアで、プロジェクトが数多く紹介されるようになった。
- ・ 学校の振り返り授業で、子どもたちが新聞をつくり、それが市役所に展示され、多くの市民が自分たちの活動を知ってくれるようになった。
- ・ その結果、深江地区の山の麓の小学校2校から一緒に活動したいと要望され、今年度から地元小学校を含む3校で取組を進めることにした。



- 14年目を迎える長年の取組により、活動の輪が広がり、深江地区にある3つの小学校だけでなく、地区外の南島原市内の学校からもプロジェクトに参加したいと問合せがくるようになった。
- しかし、学校との連携はスケジュール調整が難しく、これ以上の受け入れは困難である。
- 現在、問合せがあった他地区の学校については、市内で藻場や干潟の保全活動などを実施している他の活動組織を紹介している。
- もし、こうした組織においても、連携が進めば、市全体で地域の海における保全活動の輪が広がる。
- また、市全体で学校と連携した藻場や干潟の保全活動が進めば、将来を担う新しい人材を確保する機会が増えると考ええる。
- 今後も、プロジェクトを継続し、それを通じて幅広く『海の環境を守ることの大切さ』を周知し、活動の輪を市全体に広げる仕組みづくりを検討していきたい。
- また、『I S A N A』の学生など、活動を支えてくれる新しい人材の確保も図っていきたい。

ご清聴ありがとうございました。



中学校と連携した漂着物除去の取り組み